

がん診療 あさひ

11号

2022年9月
発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～



がん相談支援センタースタッフ

当院では、地域がん診療連携拠点病院として『がん相談支援センター』が設置され、医療連携福祉相談室がその業務を担っています。医療連携福祉相談室には相談係・連携係・紹介患者係の3係があり、相談係は医療ソーシャルワーカー12名が在籍しています。がん相談看護師とともに日々患者さんやご家族のご相談をお受けしています。

相談内容としては、「心配事や不安について」「医療費に関すること」「仕事に関すること」「緩和ケアについて」「家族のがんについて」などがあります。詳しくは本紙裏面の『がん相談支援センター』や、受付や各科外来に置いてある『がん相談支援センターご案内』をご覧ください。

ご相談内容により院内関係職種・院外関係機関などと連携しながら業務を行っています。

当院は、「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」に指定されています。

地方独立行政法人
総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326 TEL.0479-63-8111(代) FAX.0479-63-8580

www.hospital.asahi.chiba.jp

がんリハビリテーション その1

がんリハビリテーションの役割

がんになると、がんそのものによる影響(痛みや食欲低下、身体の衰弱など)や、手術療法・化学療法(抗がん剤治療)・放射線療法・免疫療法などの副作用によって生じる影響(筋力・体力低下、だるさ、しびれなど)により、日常生活に支障を来すことがあります。これらの悪い影響を最小限にとどめるのが、がんリハビリテーションの役割となります。より早期から治療と並行して行われることで、状態に応じて対応し、より自分らしく質の高い生活を送ることができるように支援していきます。

手術とがんリハビリテーション

手術前後のがんリハビリテーションは、術前の体力・筋力向上や呼吸機能向上、術後の合併症予防や早期回復・早期退院を目的に行われます。術前に呼吸訓練や有酸素運動・筋力トレーニングを行うことで、心肺機能が向上し、術後合併症(肺炎など)を予防する効果が認められています。術後では、医師の指示のもと手術翌日よりリハビリテーションが開始されます。リハビリ技士が安全性に配慮しながら、身体を起こすことや歩くことをサポートしていき、術後合併症の予防・早期回復に向けて取り組んでいきます。

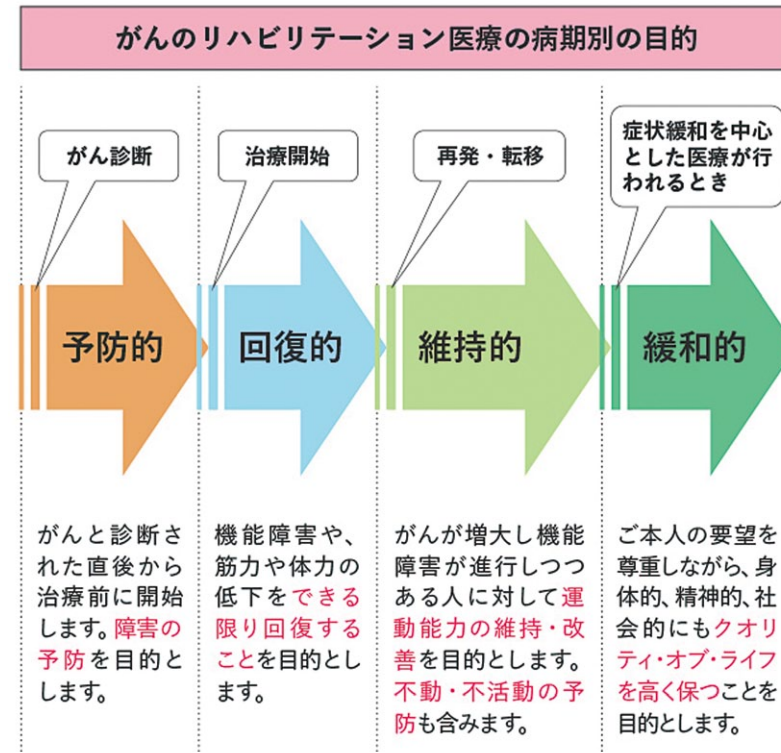
今回は、化学療法・放射線療法中のがんリハビリテーションについて説明していきます。



呼吸訓練の様子



術後リハビリテーションの様子



国立研究開発法人国立がん研究センター がん情報サービスより引用

理学療法士 足田 智之

緩和ケアチーム について

緩和ケアは、がん治療ができなくなってからではなく、がんと診断された初期段階から一緒に受けるケアです。当院には緩和ケアチームがあり、当院入院中のがん患者さんを対象に、がん診療に携わる医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、理学療法士、管理栄養士、公認心理師などがチームとなって、がん患者さんとその家族を支援します。

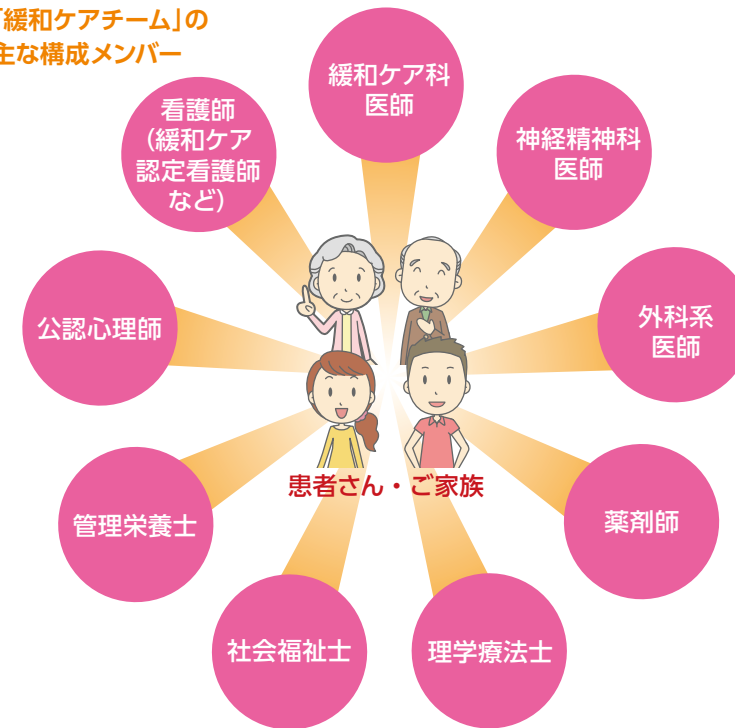
緩和ケアチームの主な役割は

- ①自分の病気を知り、治療法の選択を助けるケア
- ②痛み、痛み以外の症状を取り除くための方法を考える
- ③食事、排泄、入浴、夜間の睡眠などの日常生活を取り戻すケア
- ④こころのふれあいを大切にし、心地よい環境を提供するケア
- ⑤がん治療の外見上や日常生活の悩みの相談
- ⑥医療費や仕事の相談
- ⑦ご家族へのケア などの支援をおこなっています。

緩和ケアは、主治医や担当看護師や周囲の医療スタッフにがんのつらさを伝えることから始まります。緩和ケアについて考えるタイミングは、早すぎることも遅すぎることありません。一人で抱え込まず、つらさを話すこと、相談することが大切です。

※なお、本来、緩和ケアチームの活動は、入院中のがん患者さんに限らないのですが、現在は当院入院中のがん患者さんを対象とさせていただきます。ご相談される際にはご注意ください。

「緩和ケアチーム」の 主な構成メンバー



がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連携して、お話を伺います。



〈相談例〉

- がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
- どのように治療に取り組んだらよいのでしょうか？
- がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
- 仕事を続けるのは無理でしょうか？
- 介護が必要になったらどうしますか？
- 緩和ケアについて知りたい。

など



セカンドオピニオンについては、「紹介患者センター」で相談に応じることができ
ます。(医療機関検索・相談方法・費用・予約について)

がん相談支援センター

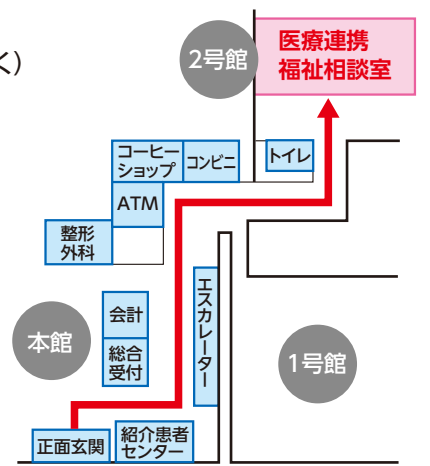
案内図

2号館1階 医療連携福祉相談室
時間/月～金(祝日・年末年始を除く)
8:30～17:15
連絡先/0479-63-8111(代)
内線2150・2151

相談は無料です。

※なるべく予約していただくことを
お勧めしています。

※当センターで医師と直接お話をすることはできません。社会福祉士・看護師がお話を伺い、担当医にご相談内容をお繋ぎすることは可能です。



ハローワーク出張相談

ハローワークスタッフが当院で個別に就職のサポートをします。治療のために仕事を辞め、就職を希望されている方や、仕事の継続を希望の方、治療のため就職準備が難しい方などぜひご相談ください。

日にち: 毎月第2水曜日

時間: 10:30～14:30の間で3人まで(事前要予約制)

場所: 医療連携福祉相談室 費用: 無料

申込み: 前日の15:00までに医療連携福祉相談室で直接申し込むか、お電話でお申し込みください。

高額療養費の話

がんの治療にはお金がかかると思われていますが、保険適用の治療であれば高額療養費制度が利用できます。所得によりひと月の上限額が決まっており、それ以上は負担しなくてもよいことになっています（医療機関が異なる場合や同一世帯の方の有無などで条件が変わることがあります）。



お手続きは加入している保険者（保険証を発行しているところ）に行います。

70歳以上の方の上限額（2018年8月診療分から）

運用区分	ひと月の上限額（世帯ごと）		
	外来（個人ごと）		
現役並み	年収約1,160万円～ 標報83万円以上／課税所得690万円以上	252,600円+（医療費－842,000）×1%	
	年収約770万円～約1,160万円 標報53万円以上／課税所得380万円以上	167,400円+（医療費－558,000）×1%	
	年収約370万円～約770万円 標報28万円以上／課税所得145万円以上	80,100円+（医療費－267,000）×1%	
一般	年収約156万円～約370万円 標報26万円以下／課税所得145万円未満等	18,000円 〔年14万4千円〕	57,600円
非課税等	II 住民税非課税世帯	8,000円	24,600円
	I 住民税非課税世帯 （年金収入80万円以下など）		15,000円

69歳以下の方の上限額

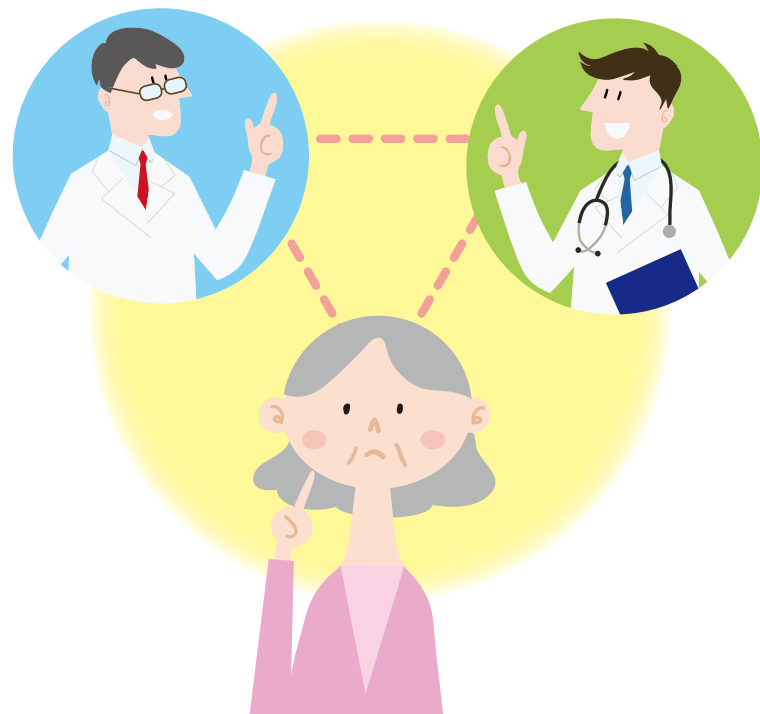
運用区分	ひと月の上限額（世帯ごと）	
ア	年収約1,160万円～ 健保：標報83万円以上 国保：旧ただし書き所得901万円超	252,600円+（医療費－842,000）×1%
イ	年収約770万円～約1,160万円 健保：標報53万円～79万円 国保：旧ただし書き所得600万～901万円	167,400円+（医療費－558,000）×1%
ウ	年収約370万円～約770万円 健保：標報28万円～50万円 国保：旧ただし書き所得210万～600万円	80,100円+（医療費－267,000）×1%
エ	～年収約370万円 健保：標報26万円以下 国保：旧ただし書き所得210万円以下	57,600円
オ	住民税非課税世帯	35,400円

（2022年7月現在）

2022年10月1日から、一定以上の所得のある75歳以上の方は、現役並み所得者（窓口負担割合3割）を除き、医療費の窓口負担割合が1割から2割になります。

社会福祉士 浪川 裕加

セカンドオピニオンについて



がんの診断や治療では、患者さんが正しい情報に基づいて担当医と十分に話し合い、納得して治療を受けることがとても大切です。セカンドオピニオンとは、その納得のいく治療法を選択することが出来るように、現在診療を受けている担当医とは別に、違う医療機関の医師に、「第2の意見」を求めることです。

まずは、現在の担当医の意見を十分に聞き、理解することが大切です。不明なまま複数の医師の意見を聞いてもかえって混乱してしまいます。生じた疑問や不安は、現在の担当医に相談してください。

どの医療機関で受けるのか決まったら、その医療機関の窓口に連絡して必要な手続きを確認してください。基本的に自費診療で、予約が必要となります。

セカンドオピニオンを受けた後は、病気や治療方針についての考えが変化したかどうか、もう一度現在の担当医とお話した上で、これからの治療法について再度相談してください。患者さんの中には主治医にセカンドオピニオンを申し出るとは診断に対して不信感を抱いていると思われるのでは、とためらう方もおられますが、そのようなことはありません。病状によっては様々な治療方法を選択できる場合があります。その中から最終的に治療方針を決定するのは患者さんご自身です。セカンドオピニオンの必要性を感じられましたらご遠慮なく 紹介患者センター までお申し出ください。

紹介患者センター 伊藤 利一

当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これをなるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

外科 永井

患者さん



放射線治療について

治療の特徴

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

- 外照射
 - 一般的な外照射（ほぼ全身が対象で乳房温存療法、食道癌、骨転移など）
 - 高精度治療 IMRT 強度変調放射線治療（前立腺癌など）、定位放射線治療（脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など）
- 腔内照射（子宮癌）
- 内用療法 ソーフィゴ注（骨転移）、ゼヴァリン注（悪性リンパ腫）

放射線科（治療部門） 太田

緩和ケアについて

緩和ケアとはがんに伴う身体や気持ちの問題について、病気の治療だけでなく社会生活なども含めて全人的に患者さんを支える医療のあり方です。

世界保健機構（WHO）では、緩和ケアはがんと診断された早い時期からがん治療と平行して行われるべきものと言われています。

患者さんが自分らしい生活を保つことができるよう、医師・看護師のほか薬剤師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士・管理栄養士が協力し、患者さんご家族に様々な支援を行います。

緩和ケアセンター

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の3本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように**有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、生活の質（QOL）が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。**化学療法センターの病床数は40床（リクライニング8、ベッド32）あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師1名を含む看護師7名と医師1名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

化学療法科 中村